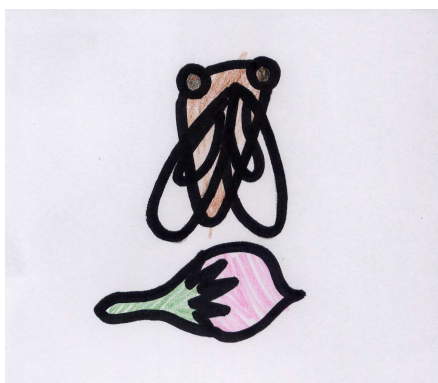


お盆の仏参り及び棚行の折にお会い致しましたお檀家様の皆様には、本当に色々なお話や激励などいただき、私も住職としての自覚と責任の重さを日に日に強くして参りました。まだお会い出来ていないお檀家様とも是非早めにお会いできる機会を作りたいと思っております。

さて前回に続きました私事ですが、少し感動したことがあったので今回の冒頭に書かせて頂きました。



お盆参りも終わったある夕方に、お寺の境内を掃除しておりますと、玄関の隅に蟬の死骸が落ちておりました。蟬の命は地上に出てから一週間と聞いております。夏も終わりに近づき役目を終えた蟬かとそばに寄りますと、地藏さんに供えてあった花も一緒に落ちておりました。風の偶然にしては奇妙だなどと思いつつ、その日はそれらを掃き集めるのは止めました。

その夜、うちの七歳の長女が、「お父さん、玄関の蟬を捨ててないやろな？」と、聞いてきましたので「あの蟬さんは、お前があそこに置いたんか？」と聞きますと、「いや、あそこで死んでたんやけど、可哀想やからお花を拾ってきて一緒に置いといた。」と答えました。

風の偶然ではなかったのです。つくづく、日常の何気ない大人の動作を子供はしっかり見て色々考えているのだなと思いました。昨今、子供が親や兄弟を殺した上に家にまで火をつけるような事件が続発しております。子供をしかったり、色々な事を強制する前に、まず大人自身がそれを守っているか、理解しているか、そして言うだけではなくやってみるということを私も実践していこうと思いました。

そういう訳で、お彼岸には是非家族一緒にお墓参りきていただければと思います。

🗣️ 「仏教の生活~お盆号~」 続・質問帳より

質問】 うっかり年会法要を忘れ、ご命日を過ぎてしまいました。どうしたらよいですか？

回答】 よく「仏事は遅れてはいけない」といわれますが、これは「忘れずに確実に行いなさい」ということを言い換えたものです。このことからいえば、例えご命日が過ぎてしまってから法要を執り行っても差しつかえありません。

ご法要は亡き方への素敵な贈り物をする日です。その大事な記念日を思い出したあなたに、ご先祖様はきっと感謝してくださるでしょう。そして何より、年会法要を勤めたあなた自身が心が豊かになるのです。

(裏面に続きます。)

《住職より》私も今までは年会法要は過ぎてはいけないものだと思っておりました。昔から、特に仏事に関しては色々な言い伝えがあります。例えば「本家のお墓には長男以外の親族が入ってはいけない」などが代表的なものですが、これも本来の意味は「仲が良い兄弟などが同じお墓に入ることは別段問題ではないのですが、例えばその兄と弟の子孫がいつまでも仲が良いとは限りません。そんな時お墓が一つしか無いと勿論トラブルになりますよね」ということを暗に含んでいる訳でございます。これと同じ理屈で、年忌法要に関しての言い伝えも出来たのでしょう。

ですので、年会法要を行いたいが過ぎてしまったから次回にしようと思っているお檀家様がいらしゃいましたら、是非亡きご先祖様の為にご法事を行っていただけたらと思います。参考までに今年の年忌の表を載せておきます。来年の方もご参考にしてください。

	今年(平成 18 年)		今年(平成 18 年)
3 回忌	2004 年 (平成 16 年) 寂	25 回忌	1982 年 (昭和 57 年) 寂
7 回忌	2000 年 (平成 12 年) 寂	27 回忌	1980 年 (昭和 55 年) 寂
13 回忌	1994 年 (平成 6 年) 寂	33 回忌	1974 年 (昭和 49 年) 寂
17 回忌	1990 年 (平成 2 年) 寂	37 回忌	1970 年 (昭和 45 年) 寂
23 回忌	1984 年 (昭和 59 年) 寂	50 回忌	1957 年 (昭和 32 年) 寂

*** 9 月 16 日 (土) に時宗真光寺 (神戸市兵庫区) に、時宗 74 代遊行上人がご賦算 (お札配り) に来られます。同時に時宗宗祖一遍上人の御忌法要が勤修されます。**

私も参加いたしますので、ご興味のある方は是非ご参列下さい。真光寺への目印は市立須佐野中学校の裏手、もしくは清盛塚の向かい隣となります。毎年 9 月 16 日に行われるのですが、なかなか土日にも重なることはありません。今年は土曜日ですので、仕事がお休みの方もいると思います。特に歴史にご興味がある方は、お誘い合わせの上、時宗独特の仏事 (ご賦算・踊り念仏) を体感していただければと思います。

(午後 1 時開始予定)

〔編集後記〕

今回は私事が長くなり、記事自体が少なくなっていました。なかなか文章を上手く仕上げるというのは難しいことなんだなあ、前回と同じようなボヤキが出てしまいます。今年の夏に、某ホテルである有名な人物と食事をする機会に恵まれました。その方は新聞紙面にもよく登場される方で、現代の新聞のあり方などのコラムを掲載されています。そんな偉大な方にこの寺報の話をして「是非読ませて下さい」とおっしゃっていただきました。とても嬉しかったのですが、もうしばらく、この方面も修行をしてから読んでいただこうと思っています・・・皆様も私の修行の為にも、叱咤激励のほど宜しくお願いします。

発行 ; [時宗 慈光山 普照院] 住職 小田宗治

神戸市長田区林山町 17-1 TEL078 - 691 - 5688 (夜間 ; 葉仙寺転送)